


| | | |
|--|--|---|
|  Viet Nam | 学校名：東京都町田市立山崎小学校 氏名：小針 真利恵 [担当教科： 特別支援教育(難聴)] | ● 実践教科等：特別支援学級(難聴) 自立活動【個別指導】 ● 時間数：6時間 ● 対象児童：第6学年 ● 対象人数：1人 |
|--|--|---|

1 単元名

「異文化理解と国際協力から考える、わたしの今と未来」

2 単元の目標

ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度(国立教育政策研究所が例として示したもの)
 (多面的、総合的に考える力)(コミュニケーションを行う力)(未来を予測して、計画を立てる力)
 (進んで参加する態度)

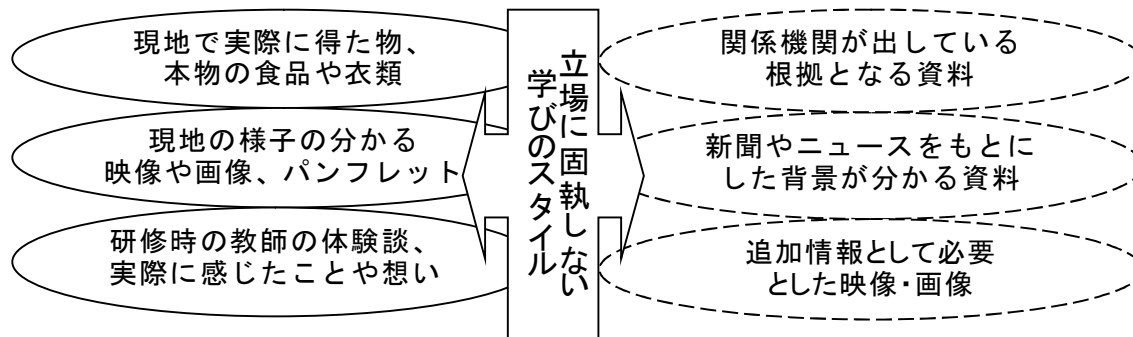
ベトナムの文化や人、国が抱えている課題や豊かさの学習を通して、視野を広げた日常生活を送ったり、今後の自分の行動を考えたりする。

3 単元の指導について

(1)教材観

本単元で使用した教材は、大きく次の図のように分けられる。個別指導のため、ねらいに迫るためのおおまかな教材活用に加えて、児童が理解をより深める資料を適宜追加したり、不思議に思ったことをその場で調べる活動を取り入れたりして、児童が主体的に学べるように工夫した。

図の実線枠は、教師が意図的に提示した教材であり、点線枠は、児童が自ら出した教材である。具体的に活用した教材名は、授業実践例の紹介(3)に記載した。



(2)児童観

特別支援学級(難聴:きこえの教室)に通う、小学6年男児Yである。中等度難聴であり、補聴器を両耳に装着して生活している。難聴による言葉の理解や習得の独特さがあり、個別指導を必要としている。Y児は、週2時間の個別指導と月1回の集団指導を受けている。

Y児の性格はおっとりとしていて、友達や学級担任、保護者などから声をかけられてやっと活動することが多い。授業中の発言は少なく、参加意欲がやや低い。自発的な話題提供や会話のキャッチボールも苦手である。その反面、パソコンやタブレットを操作する能力に長け、ローマ字入力やインターネット検索が得意である。

興味の幅は狭いが、自分が関心のあることや疑問視したことについてはほとんど知りたがり、自己解決しようとする良さを生かしたいと考えた。より多面的な場面で興味関心を得るために、物事の捉え方や視点を見つける力がもてることを期待して授業を展開した。

～本人の思い～

- ・家庭科が好き。 ・算数科が苦手。 ・社会科をがんばりたい。
- ・将来は、家にいることと、本が好きだからたぶん作家になる。

～保護者の思い～

・社会に興味もてるようになってほしい。・もうすぐ中学生になるので視野を広げてほしい。

(3) 指導観

Y児の指導は、前期後期に分けた個別指導計画に則って行われている。本単元は後期計画にあたり、小学校生活最後の学期でもある。卒業を控えたY児にとって、未来を自分らしく国際社会の一員として生きていくために必要な視点や教養を身に付けさせたいと思い、授業を行った。

また、本単元の授業を実践するに当たって、昨年度(第5学年の後期)の授業が関連している。JICA 地球ひろばから出されている題材を使用した授業実践を行った。「どうなってるの?世界と日本」の授業では、「日本と外国との生活の違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付き、意見を理由付けて発表できる」姿を目標とした。Y児は、授業を受けて日本の食料自給率の低さに驚き、「自分の好きな海老の自給率が一番高いのがベトナムだったことを初めて知った」と感想を述べた。また、学習のまとめでは、「海老などの海外からの輸入品がないと日本の食事が質素なものになってしまうから、外国の人と仲良くしておくことが大事である」と発表した。

このような、思考や感性を持ち合わせているY児にとって、本単元のような机上の学習を超えた本質により迫っていく授業は有効であると考えた。授業の導入としても話題にし、Y児の国際感覚の育成、生涯学習、キャリアにつながる学びを意識した指導を行いたい。

4 評価規準 観点:自立活動6区分 評価規準:自立活動26項目

| 観点 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | コミュニケーション |
|------|---|--|---|--|
| 評価規準 | <ul style="list-style-type: none"> ・情緒の安定に関する事。 ・状況の理解と変化への対応に関する事。 ・障害による学習上又は、生活上の困難を改善、克服する意欲に関する事。 | <ul style="list-style-type: none"> ・他者とのかかわりの基礎に関する事。 ・自己の理解と行動の調整に関する事。 ・集団への参加の基礎に関する事。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保有する感覚の活用に関する事。 ・感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握に関する事。 ・認知や行動の手がかりとなる概念の形成に関する事。 | <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの基礎的能力に関する事。 ・コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。 ・状況に応じたコミュニケーションに関する事。 |
| 評価方法 | <ul style="list-style-type: none"> ◇学習ファイル ◇発言 ◇態度 | <ul style="list-style-type: none"> ◇学習ファイル ◇発言 ◇態度 | <ul style="list-style-type: none"> ◇学習ファイル ◇発言 ◇態度 | <ul style="list-style-type: none"> ◇学習ファイル ◇発言 ◇態度 |

5 単元の構成

| 時限 | 小単元名 | 学習のねらい | 授業内容 |
|----|------------------------------|--|---|
| 1 | 自立活動【国際協力】について知り、考えよう。 | ◎異文化に触れ、ベトナムの国や人の特徴を見つけ、国際協力について考える。 | ○「ベトナム探し」を通して気付いたことをまとめ、どのような国柄や人柄を感じたかを発表する。 ○ベトナム「ニャッタン橋」について知り、国際協力について考える。 |
| 2 | 自立活動【文化継承】について知り、考えよう。 | ◎ベトナムの子どもの生活の様子を知り、文化や芸能の伝承について考える。 | ○ベトナムのモー村での民族衣装や踊りを見て感想を 発表する。 ○芸能、民族文化についての伝承について考える。 |
| 3 | 自立活動【文化の在り方と町田市】について知り、考えよう。 | ◎国際協力について考えを深めJICAの取り組みを知るとともに、町田市の文化伝承について自分の意見をもつ。 | ○国際協力の目的やJICAの取り組みを知る。 ○町田市の文化について知り、自分のことばで考えを表現する。 |
| 4 | 自立活動【幸せな世界】について知り、考えよう。 | ◎ベトナムの歴史や社会的背景(戦争)について知り、自分の見解をもつとともに、自分の障がいについて考える。 | ○ベトナム戦争での戦略(枯葉剤やオレンジ剤)による被害や被害を受けた人について知り、今の自分について考える。 ○世界、日本、自分の視点で、幸せな世界について考える。 |
| 5 | 自立活動【SDGs】について | ◎ベトナムの環境問題の事例を通して学び、国際感 | ○ベトナムの環境問題を知り、対策や工夫、優先にすべき課題の考え方について |

JICA 教師海外研修 授業実践報告書

| | | | |
|---|----------------------------|--|--|
| | て知り、考えよう。 | 覚を身に付ける。 | 学習する。 ○企業や団体のSDGS活動のスクラップを見て、活動の動機や意義を考察する。 |
| 6 | 自立活動 【今と未来】について知り、考えよう。 | ◎国際社会と日本、SDGSの視点を生かした、今後の自分の生き方、社会貢献について考える。 | ○今(自分は12歳)を次の視点で考える。 ・ベトナム ・日本 ・町田市 ・自分 ・小針先生 ○「あなたにとっての幸せとは」のインタビュー動画を見て、感じたことを発表する。 ○未来(自分が20~30歳の青年期)を、上と同じ視点で考える。 ○国際協力やベトナムを通して知ったことをもとに、自分の今後の立ち振る舞いや生き方(成長させたい面)について考え、何ができるかについて整理する。 |

6 授業事例の紹介

小単元名【自立活動:「幸せな世界」について知り、考えよう。】

(1) 指導案

(ア)実施日時 11月16日(金)第6限

(イ)実施会場 きこえの教室 個別指導

(ウ)本時の目標

◎ベトナムの歴史や社会的背景(戦争)について知り、自分の見解をもつとともに、自分の障害について考える。

(エ)指導のポイント

- ・障害理解とその背景の違いを捉えさせること。
- ・次回のテーマ(環境問題)や(人)、資源の有限性、SDGsの学習に繋がるように、落としどころを世界規模で捉えさせること。
- ・世界、日本、自分の視点で、幸せな世界について考える機会を与えること。
- ・ワークシートの活用をして、思考の手がかりとすること。

(オ)本時の展開

| 過程・時間 | 指導内容 | 学習活動 | 指導形態 | 指導上の留意点 | 評価 (評価規準) |
|-------|--------------------------------|--|------|--|-------------------------------------|
| 3分 | ●ベトナムの美観と戦争によって無くなった物や人を知らせる。 | ○ベトナムの名所や戦争証跡博物館の様子を知る。 ・教会 ・オペラハウス ・戦争証跡博物館 | 個人 | ※ベトナムの国の良さや風景が分かりやすいものを選択して紹介する。 ※研修時に訪問した戦争証跡博物館は具体的な資料を含めて示す。 | |
| 10分 | ●戦争からは何も生まれず、負の遺産しか残らないことを伝える。 | ○ベトナム戦争での戦略(枯葉剤やオレンジ剤)による被害を知り、今の自分について考える。 ・戦争の時代に生まれていたらどうだったか。 ・戦争について、テレビのニュースや資料等でどんなことを知っているか。 ・戦争について、どのように感じているか。 | 個人 | ※難しい言葉や専門的用語が多いので解説を入れる。 | ・認知や行動の手がかりとなる概念の形成に関すること。(発言、態度) |
| 10分 | ●戦争による障害、自分の障害、健常者について考える。 | ○ツーズー病院平和村が担う役割とドクさんの考えを知り、自分なりの意見をもつ。 ・枯葉剤の影響による障害とその家族や環境 ・ドクさんのインタビュー | 個人 | ※平和村で生活している人の様子を示す際は、児童の発達段階や精神の状態を考えて、画像を選択する。 | ・障害による学習上又は、生活上の困難を改善、克服する意欲に関すること。 |

JICA 教師海外研修 授業実践報告書

| | | | | | |
|----|------------------|--|----|---|---|
| 5分 | ●幸せな世界について考えさせる。 | ○幸せな世界について考える。 ・世界規模としての幸せ ・日本全体を見た幸せ ・自分の周りの幸せ | 個人 | ※世界：他国を意識した国際社会 日本：ニュースに取り上げられているような、最新の情勢 自分：日常生活の範囲 | (発言、態度) ・自己の理解と行動の調整に関すること。 (発言、態度) |
| 1分 | ●本時の学習を振り返らせる。 | ○感想を学習ファイルに書いて述べる。 ・幸せな世界について ・障害について | 個人 | ※どうしても見つからなかったら、学習内容の一部でも良いと伝える。または、聞き取りをして、指導者が記録する。 | ・コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。 (発言、態度、学習ファイル) |
| 1分 | ●次回の予告をする。 | ○次回の予告を知る。 ・環境 | 個人 | ※今後の展開について、見通しをもたせる。 | |

(2)使用教材、教具等

～資料～

- ◇国際協力資料「ODA(政府開発援助)日本ベトナムの友情をつなぐ空の玄関からハノイの街へ」
外務省・国土交通省
- ◇JICA初めての方向けパンフレット「みんなでつくるよりよい世界」
独立行政法人・国際協力機構
- ◇文科省文化財資料
- ◇町田市の文化資料
- ◇戦争証跡博物館資料
- ◇企業や団体のSDGS活動資料
- ◇ツーズー病院平和村院長やドクさんの話インタビュー記録

～写真～

- ◇ニャットン橋
- ◇清水建築、ハマデン、イオン
- ◇現地の子ども、小学校
- ◇バイクやバスなどの交通
- ◇研修中の集合写真
- ◇水上人形劇
- ◇ベトナム戦争
- ◇SDGS17の目標
- ◇洪水、汚水、ごみ、循環システム

～動画～

- ◇バイクやバスなどの交通
- ◇音楽の授業
- ◇モー村での民族舞踊
- ◇水上人形劇
- ◇あなたにとっての幸せとはインタビュー

～具体物～

- ◇アオザイ
- ◇笠
- ◇民族刺繍バック・袋
- ◇ベトナムの国旗や地図
- ◇ベトナム語のABC表
- ◇ベトナムグリーン服
- ◇食品(ベトナムコーヒー・蓮茶)

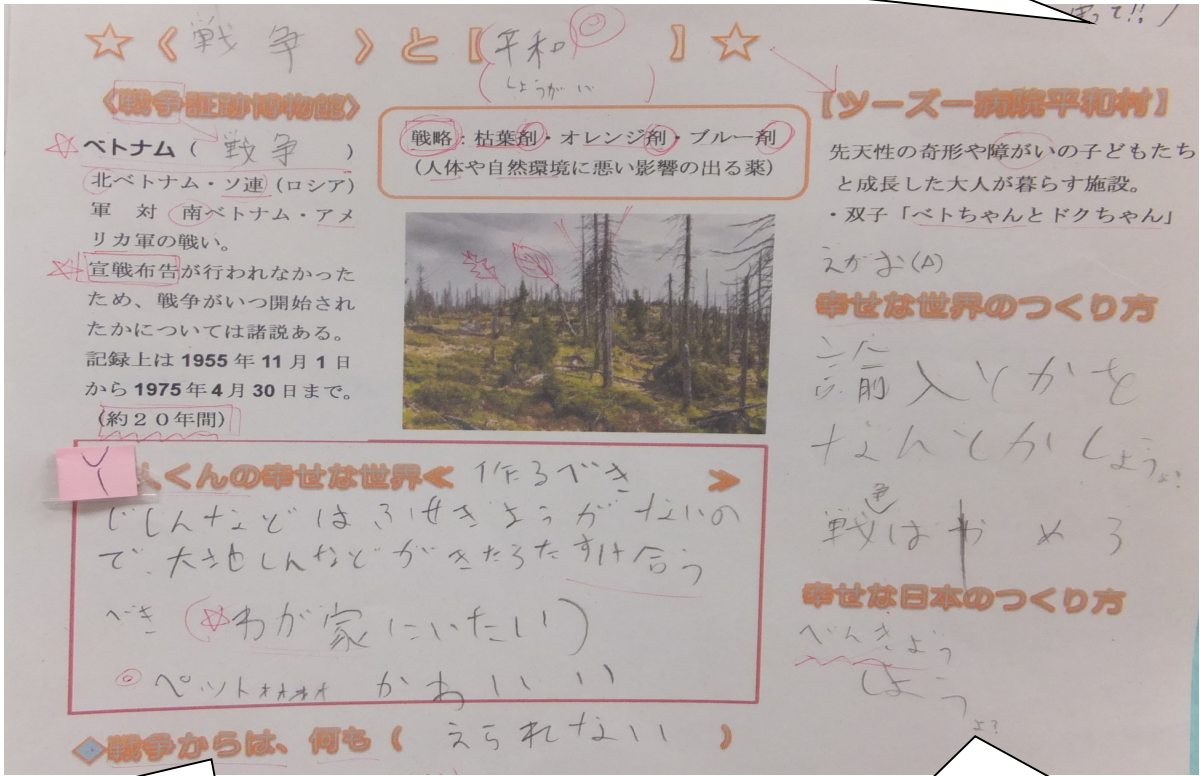
(3)参考資料等

- 文献:「ソーシャル・プロジェクトを成功に導く12ステップ—コレクティブな協働なら解決できる! SDGs時代の複雑な社会問題」 佐藤 真久/広石 拓司 みくに出版
- 文献:「SDGsと環境教育 —地球資源制約の視座と持続可能な開発目標のための学び」
佐藤 真久 田代 直幸 蟹江 憲史 学文社
- 文献:「人間の最高価値」 A. Hマスロー 誠信書房
- 文献:「マズローの心理学入門 人間性心理学の源流を求めて」 中野 明 ヨルメバ

(4) 授業の振り返り

ドクさんのインタビューを文章化し、内容を読解させた。Y児は、関心をもって、話を聞き、ドクさんがアメリカ（戦争時の敵）と仲良くすることを願っていることに驚いていた。加えて、「障害者にとって、家庭を築き、家族（妻、子）をもつことが一番幸せである」と発言したことを伝えると、「そうなのか…」とY児は反応し、ドクさんの幸せの価値に触れて、感激した様子だった。しかし、ドクさんの表情を写真で数枚見た時には、「本当の笑顔なのかな」とも発言し、表面では、アメリカと仲良くすることを願っているとしても、できることなら・・・、許されるなら・・・と内心の潜ませている思いについても観察していたようだった。Y児は、ワークシートに「えがお（△）」と記述した。

インタビュー内容と視点（あなたにとっての幸せとは何か）を統一したことで、より理解を深めるきっかけとなり、大切な価値に迫る有効な手立てだった。



本単元では、次の順番でテーマを5つ提示してあった。〈国際協力〉〈芸能文化〉〈歴史〉〈環境〉〈今と未来〉

今回の授業は、3つめのテーマであり、単元の中心部分になるわけだが、前回までの国際協力、芸能文化という何かを創り上げる、それらを伝承したり工夫して変化させたりするような内容から、真逆のテーマである。戦争は全てを破壊し、今までの人間が築いたものや風習、文化を無かったことにしてしまうこと、自然を傷つけて未来の可能性を下げさせてしまうことなどに気付かせたかった。これを受けてからの、次回のテーマ〈環境〉に行くことにとっても大きな意義をもって授業を構成した。Y児を含め、未来を創る人材育成の必要性を痛感した。

「豊かな未来を創るために、自分たちは、勉強する必要がある」とY児は、表現した。この視点には、児童の生活経験が関係するため、指導の方向性について、大変苦労していた。そのため、あえて資料を提示することなく、テーマに入っていくことを選択した結果の児童の発言である。これを受けて、Y児の発言から、本来人間が持っている、欲や成長したい願望について考えさせられた。また、Y児の表現に加えて、「よ？」とあるのは、自分だけの成長ではなく、周りのみんなも同様に勉強していく必要性に触れさせ、共存している意義や協力して世界を創り上げることについて、指導者が言及したためである。この点において、今回のアプローチではなく、他の手法で何かしらの資料を提示するならば、何が適切であり、どの範囲まで伝えるべきか、具体的に考える必要があると感じた。

7 単元をととした児童の反応/変容

本単元を通して児童が大きく変容したのは、自分なりの幸せの価値に気付いたことである。海外研修に行く前の前期の授業で、現状の生活や将来の夢について語る機会があった。その時にY児は「幸せな時なんてない」とはっきりと言った。担当者として、楽しい時や心が落ち着く時など、具体的な場面で示すと、「家からは出たくない」「このは(飼っている猫)は好き」という発言は引き出せた。それが、研修後の授業実践を通して、単元の終盤「あなたにとっての幸せとは」の問いに次のように自発的に答えたのだ。そして、同時に「今の自分にできること」を考えるまでに至った。

【自分にとっての幸せな世界】

- ・大好きな家族（ペットを含む）と一緒に家で暮らすこと。
- ・ずっと一人が好きで居たけれど、今年、仲の良い友達が3人できたこと。
- ・自然豊かな町田市に住んでいること。

【今の自分にできること】

- ・地震などは、防ぎようがないので、大地震が来たら助け合うこと。
- ・町田市の自然を守るために、何か気付いたら、市役所の人や近くの大人に伝えること。
- ・紙を無駄遣いしないこととリサイクルを意識すること。(3R)
- ・うちわを使うようにして、温暖化対策をすること。

上記のY児の記述は、まだ具体性に欠けるところはあるが、今まで意識がなかったことに気づき、変わろう、変えよう、守ろう・・・などと語る事ができたことが大変よかった。視点の整理や語彙の拡充をもう少し指導し、思考や理解を促したい。

8 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

成果

- ・発展途上国のベトナムを例にして、世界規模での視点を児童に与えることができた。
- ・「今のベトナムは、日本の40年前に似ている」との例えについて、現地のJICA事務所から説明があったが、先進国であるがゆえに、日本が忘れがちな価値、普遍的な価値について、再認識できた。
- ・それぞれの国のストロングポイントとウイークポイントを理解することで、国際協力の意味や行動の取り方が変わってくるのが分かった。
- ・事前に作成した指導案では、教師からの発問のみであったが、途中児童から町田市についての問いが生まれ、主体的に学ぶ姿が見られたことがよかった。

課題

- ・どこまでを取り上げ、どの程度の知識を児童に伝えるべきか、その程度を考え決断することが難しかった。
- ・難聴学級での授業実践をどのように作っていくか、また、本来の難聴理解、自立へどのようにして関連付けるか思考錯誤した。

改善策

- ・5つのテーマごとに分けて、その中での落としどころと次のテーマへの関連性を考え、知識や理解の程度を判断した。
- ・授業の構成では、客観視な資料を活動することを大事にしつつも、児童の理解を深める際や障害受容などを考える際は、時折主観を交えて授業をすることにした。

9 教師海外研修に参加して

「百聞は一見にしかず」はその通りだった。現地を実際に見たり関わっている方の話を伺ったりすることで、社会の果たすべき責任や世界の環境問題への取り組みなどについて身をもって知ることができた。それらが、日本の経済や生活、自分の身の回りの物事に深く関連していることも同時に学んだ。

そして、本研修中はもちろん、事前、事後の研修をとおして、スーパーアドバイザーの佐藤真久先生、JICA職員の方々の支援のもと、仲間とともに理解を深めることができた。全行程において学びの視点を増やすことができたこと、同じ志をもつ仲間が増えたこと、未来を創る児童へ想いを届ける機会を頂けたことに感謝している。今回の大変貴重な経験を生かして、自分の今後の生活を見直し、社会貢献への取り組み、深みのある教育活動を進めていく所存である。